

CSW68 参加報告

東京支部 藤川真理子

都合により前半 1 週目だけ参加させていただきました。

CSW に参加して女性・女児の権利についてグローバルな視点で捉える必要性を文字通り肌で感じました。国連本部内に足を踏み入れ多国籍多言語の参加者の熱気の中に身をおくと私の日本人としてのアイデンティティに揺さぶりをかけられているような思いにかられます。

国連内の大会議場でのグテーレス事務総長の開会挨拶や会議・サイドイベント等の傍聴や参加もさることながら、昨年同様 NY まで来た甲斐があると感じたのは国連日本政府代表部会議室での日本政府代表団による NGO プリーフィングでした。週 1 回の NGO プリーフィングで私は今回 3 月 13 日のみの参加となりました。

代表部は、窓口は昨年に引き続き秋田さんでしたが、急逝された田中由美子さんの後任の大崎麻子代表の他に大使、公使等も交代となり、私達 NGO 側にはお馴染みの外務省女性参画推進室長の古本建彦氏という陣容。自己紹介に時間が費やされたのが残念に思えました。大崎さんが閣僚級ラウンドテーブルでの日本政府の取組についての報告内容をシェアしてくださいました。国内については経済対策、男女の賃金格差や育休の取得状況の開示、unpaid work が女性に偏っている問題、女性に関する法律、国際的には UN Women や JICA を通した gender bond への協力、女性起業家への支援、上川大臣が注力してきた WPS について、女性の基本的人権と男性中心のデジタル技術に関するデジタルデバインドやデジタル暴力などの懸案事項等について、聴きごたえのある説明を受けました。内閣府からは加藤大臣のビデオメッセージの内容について、女性版骨太の方針、2030 年までに女性の管理職を 30%にする目標、災害時の現場対策への女性の参画等々、説明を受けました。聞くところによると 2 週目、若手メンバーは張り切って事前に準備をし質疑応答に注力したそうです。

このプリーフィングは NGO のメンバーが女性・女児に関する問題について外務省、内閣府、厚労省、文科省等の担当者と一緒に会して意見交換できる貴重な機会です。折角の対面での機会ですが、特に 1 週目は自己紹介に時間がかかってしまうので、シニアメンバーも若手も事前の顔合わせを兼ねて例えば CSW のテーマに沿った話をオンラインで行い意見交換したい内容を 3 点くらいに絞り、通告しておくことを提案したいと思います。その場限りでない回答が期待できるからです。特に 2 週目については、さらに深めた議論を志向し双方にとって意義を感じる機会にすることができると確信するものです。